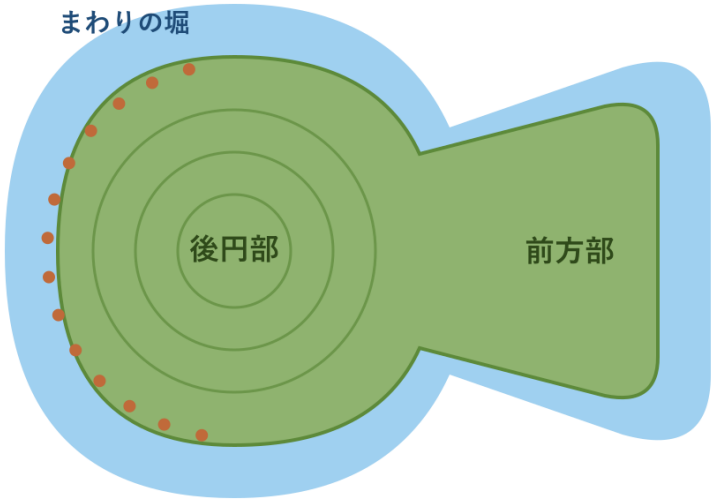
古墳と大和朝廷

大きな古墳から、どのようなことがわかるか

前方後円墳（上から見た図・模式）





古墳から見つかる物
はにわ：墳丘に並べた
鏡・剣・玉：中に納めた
（副葬品）

むらからくにへ、そして大和朝廷へ

むら

米づくりが広がり、人々がむらをつくって
くらす。むらどうしの争いも起こる。

くに

むらがまとまって、各地にくにができる。
王や豪族が現れ、大きな古墳をつくる。

大和朝廷

大和地方（今の奈良県）の豪族を中心に
大和朝廷ができ、大王（のちの天皇）を
中心に、各地の豪族を従えて統一を進めた。

前方後円墳の広がり

近畿地方を中心に、九州地方から東北地方まで、
各地につくられた → 大和朝廷の力が各地に
広がったことがわかる。

※ 大和朝廷は、大和政権ともよばれる。古墳の形・はにわ・副葬品は、代表的な例をかいた模式。